

— 編集後記 —

本号は創刊10周年記念号。その「巻頭言」に書き忘れたことを、この場をかりて追記したい。それは、機関誌の名称、題字などの意匠を商標登録してあるということ。神戸女学院大学女性学インスティテュートの『女性学評論』(Women's Studies Forum) は数ある女性学関係の学術誌のなかでも、特色ある学術誌として、今後も号を重ねていってほしい。(K. B.)

晴天霹靂の出来事が続いたこの一年。それでも着々と復旧・復興工事が進んでいくのと同時に、お引き受けくださった原稿のために、研究と筆をすずめてくださった先生方ありがとうございました。それぞれ個性豊かで、才溢れる内容。今まで私の知り得なかった視点。読者の方々より、ひと足お先に楽しませていただきました。(S. H.)

多くの方々のご協力により10号を出すことができ感謝です。力作ぞろいで、それぞれから多くのことを学ばせていただきました。読者の感想・批評が、ニューズレターとか討論会とかにつながっていくことを願います。そして何より学生諸姉がしっかり読んでくれることを期待します。(T. H.)

編集委員に欠員ができたということで、途中から加わることになりました。ただこの仕事、どういうことをするのやら要領がわからないまま、会議には顔を出しつつも、お客さん気分であるうちに半年が過ぎてしまいました。しかし雑誌に掲載される論文をまえて読んで読ませられることになったおかげで、女性学という学問の新しさを再確認させられると同時に、もの見方にはいろいろな観点があるのだということも再確認させられました。(T. S.)

原稿を出したあとしばらくしてH先生にお会いしたら、悲しげな顔をして「私、男のひとの考えていることが分からなくなりましたわ」とつぶやかれた。でも先生、おそらくその懷疑から男性学は始まるんです。希望を捨てないでください。(T. U.)

